

令和7年度 江戸川区立小岩小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	生きる力を養う ○考える子（確かな学力） ○思いやりのある子（豊かな心） ○元気な子（健やかな体）	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○「成長」のある学校、「信頼」のある学校、「使命」のある学校 ○「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をもった児童 ○生きる力を養える教師 保護者・地域を共感させられる教師
前年度までの本校の現状	成果 ・いじめ、不登校に対する組織的対応の充実 ・あいさつや基本的な生活習慣の定着のための学校、家庭、地域の連携 ・組織的学校の運営と働き方改革に基づく取組の充実	課題	・開かれた学校の実現に向けたコミュニティスクールモデル校としての保護者や地域との連携体制の構築 ・学習基礎である基礎基本の習得に向けた取組の充実 ・働き方改革の更なる充実

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得	・ICTを活用した学びの充実。 ・放課後学習教室の取組の充実	・全学級1日1回以上活用 ・放課後学習教室への登録率50%	B	B	B	ICTを活用した授業を毎日実施。放課後補習教室の登録率は昨年度より上昇。	B	教員は積極的に活用している。タブレットの活用法や使用マナーについても指導を充実させてほしい。	B	放課後補習教室と学校とが連携し、児童の意欲を高めることで後期の参加率が上昇した。算数の基礎学力も向上。	B	学校公開等において積極的に活用して学習している様子が見られた。	学級担任も必要に応じて放課後学習教室に参加し成果につなげる。
	○授業改善の推進	・思考力表現力判断力等を養う問題解決的な学習の推進	・全教員の授業公開学期に1回以上	B	A	B	問題解決的な学習の質的向上を目指し、発問の精選や自発的に取り組める活動の設定を意識し、授業改善を進める。	B	児童同士が話し合いながら学習する様子が見られた。継続してこのような学習を実践してほしい。	B	主に算数科の研究を通して、主体的に問題解決を促すような発問や学習活動の工夫を実践できた。	B	教師の間や教材がよく考えられ、児童が意欲的に学んでいるように感じられた。	次年度は国語科、学活等に研究を広げ、児童の育成を図る。
	○読書科の更なる充実	・問題解決的な学習と運動した人や社会、自然に関わる探究的な学習活動の全学級実施	・探究的な学習活動の実施、全学級学期に1回	B	A	B	校内図書館や、小岩図書館と連携しながら探究的な学習活動の充実を図る。	B	学習発表会では学年に合った発表内容で、よく調べられている。	B	読書科と他教科を横断的に取り組めるように工夫したが、より探究的な学習になるよう計画的に指導する。	B	学習発表会等での発表内容が充実しており、児童がよく調べたと感じている。	読書科のねらいを再確認し、適切な活動になるよう見直しを行う。
体力の向上	○運動意欲の向上に向けた取組の実施、充実	・小岩ムーブ（準備運動版と整理運動版）の全校実施 ・小岩ムーブ（運動遊び版）の全校実施	・体育学習で毎時実施	A	A	A	各学級で体育学習時に毎時実施。休み時間の活用に向けて企画をして推進していく。	A	継続することが大切だと思うので、引き続き実践してほしい。	A	小岩ムーブの徹底が児童に浸透してきたため、基本的な体力向上につながった。	A	継続しての指導が児童の安心感と体力向上につながっている。	次年度も引き続き小岩ムーブを毎時行う。
	○個に応じた目標設定による運動意欲の向上	・江戸川っ子なわ跳びチャレンジウィーク・KOIWA短縄チャレンジの実施・マラソン週間	・取組集中期間各学期1回設定 ・体育学習における継続的な指導	B	B	B	取組集中期間に見る短縄への意欲の向上が見られた。技能向上に向け、学習カード等の工夫を行う。	B	児童の意欲がさらに向上するよう取り組みを期待している。	A	ランランウィーク（持久走）に意欲的に取り組み、自己記録向上等で成長を実感できた。	A	児童がすすんでなわ跳びやマラソンに取り組む様子があり、取組の成果が感じられた。	次年度も継続して取り組み、今年度の課題を改善する。
	○健康指導の推進	・歯科保健教育「歯ッピープロジェクト」及び食育の推進	・給食後の歯磨き毎日実施 ・フッ化物洗口、毎週1回実施	B	A	A	昨年度からの継続実施の成果が表れ、歯科検診において虫歯のある児童が減少した。	B	今後も継続して校内で実施しつつ、家庭への啓発も行ってさらなる成果へつなげてほしい。	A	未処置の児童数が減少し、3年間の成果が明確に表れている。新しいカード配布も児童の意欲につながった。	A	児童の意欲を引き出す取組が成果につながっている。	今後も学校の取組を家庭と連携して一層の成果につなげる。
教育の推進 共生社会の実現に向けた	○特別支援教育の推進	・特別支援教室拠点校、弱視学級、日本語学級配置校として連携した教育	・教職員の情報共有会議、週1回以上 ・特別支援に関する校内研修年2回	A	A	A	毎週木曜に生活指導夕会を実施。特別支援に関する研修も2回実施し、教職員間での連携につなげている。	A	教職員間で情報共有して、連携した指導が行われることは安心である。	A	さくろ学級担任と連携して指導することができたが、研修等を行いより理解を深める必要も感じている。	A	教員と保護者が密に連携して指導している。	校内での研修を充実させ、理解を深め児童の指導に生かす。
	○国際理解教育の推進	・自国文化や他国文化の理解を深める教育の実施	・理解教育を行い、交流や発表の場を年1回以上設定	B	A	B	日本語学級（ふじ学級）と4年生が交流した。他国の文化を理解する機会となった。	B	学校での外国語の取組があまり見えてこない。どのような取組が行われているか知りたい。	A	低学年でのALTIによる授業、高学年でのオンラインによるネイティブティーチャーとの学習を実施。	B	近隣のインターナショナルアカデミーとの交流会を実施。多文化理解につながった。	イングリッシュデイの実施等を通して、外国語への取組を地域・保護者にも発信する。
	○OSDGs委員会を中心とした環境保護整備	・各委員会にSDGsの取組実施・発表	・各委員会ごとに実施し、成果や取組を発表する機会の設定年1回以上	B	B	B	今年度はSDGs委員会が人権の花の取組を担当。児童主体で育成を実施した。	B	人権の花中間報告を実施。成長を報告するとともに、全校への発信も行った。	B	環境保護活動を全校に知ってもらったり広めたりすることも委員会活動の一貫として取り組む。	B	学校全体でSDGsへの関心を高めることで、児童の意識が変わっていると感じる。	人権の花活動2年目となる。委員会のみではなく、全校児童で取り組める工夫を検討する。
不登校・いじめ対応の充実	○いじめ・不登校対策の実施・充実	・いじめ対策委員会、個別対応会議、学校相談、迅速な指導の実施	・事案発生時速やかに適宜開催	B	B	B	事案が発生した場合、対策委員の教職員を参集して会議を実施。組織的に対応を協議し、迅速に指導につなげている。	B	学校運営協議会では学校の取組が分かる。保護者にもその様子や児童への授業等での指導が伝わるように工夫が必要。	B	管理職、主幹教諭、学年主任等と連携していじめの改善や未然防止につなげることができた。	B	大きないじめの問題が発生していないが、保護者への啓発や学校の取組が見えるように工夫できるとよい。	学校と家庭、地域が連携して取り組めるようにする。
	○毎日の記録の活用	・毎日の記録の結果を基にした学級経営	・居心地のよい学級とする児童90%	B	A	B	結果を個人面談にて保護者にも通知。個人への指導や学級経営に生かすよう活用している。	B	児童が安心して楽しく生活できる学級を目指してほしい。	B	学級の状態を把握することができたが、適切な指導につなげるために児童理解や指導力を身に付けるようにしたい。	B	児童の様子をしっかりと理解して学級経営をしてもらっている。	問題や課題をどのように解決するか、教員の理解や指導力を向上させたい。
	○小岩小学校スタンダードの全校実施 質的向上	靴揃え 右側歩行 時間行動 あいさつ 環境保護整備の取組	・児童アンケートによる定着率90%	B	A	B	学級指導を中心に児童への定着を図っている。継続指導によりどの児童もできるよう進めている。	B	あいさつをよくする児童が多く、気持ちの良いあいさつができています。	B	今年度も継続して徹底指導ができたが、一部の児童には定着が難しかった。	A	あいさつをはじめ、よく指導が生かされている。	指導が定着している児童を増やそう、さらに工夫をしていく。
学校（園）開かれた地域社会の実現	○学校・家庭・PTA・学校応援団・民生委員等と連携した教育の推進	・学校HPの定期的更新や学校公開等を通じた地域への情報発信	・HP月2回以上の更新 ・各学期学校公開による全学級授業公開	B	B	B	HPの更新を確実に実施するように校内体制を見直した。学校公開では多様な教科の指導が公開できるように調整した。	B	学校公開では、先生たちが工夫した授業を展開していた。	B	HPの更新が遅れたり滞ったりすることがあった。しっかりと情報を発信する意識をもって取り組む必要がある。	B	学校だけでなくHPでの情報発信、学校公開での多様な授業公開が見られる。	昨年度のまま更新されていないものがあつた。しっかりと更新を行う。
	○コミュニティスクールモデル校の取組の推進	・学校運営協議会を開催し、学校と地域が連携した教育を推進	・年3回の開催による協議会での話し合い、肯定的意見80%	B	B	B	学校運営協議会に関して教職員の理解が深まり、コミュニティスクールとして進めることができた。	B	運営協議会委員として今後の活動のイメージや学校との連携の方向性が	B	CSのことを理解することができた。また、地域の貴重な人材を生かした学習を計画していきたい。	B	学校評議員会での説明や議論を通して、CSの理解が深まった。	地域人材、運営協議会委員の協力により新しい取り組みを行うことができた。
	○安心・安全な学校づくり	・多様な避難訓練、警察等と連携した安全に関する教育、食物アレルギーに係る迅速かつ的確な対応	・保護者アンケート 肯定的意見90%	B	B	B	エビハン所持児童を対象としたアレルギー対応訓練を実施している。	B	今後も安心安全のために必要な訓練等は継続してほしい。	B	多様な避難訓練やエビハンの訓練等実際の場面を想定して行うことができた。	B	食物アレルギーに対する訓練等、学校独自の訓練が行われている。	既存の訓練を見直し、より実感を想定した訓練にする。
教育の展開 特色ある	○児童自ら進んであいさつができるようになる心の育成	・学校、PTA、地域、近隣校の運動によるあいさつの指導の充実	・保護者、児童、協議会委員評価等90%	B	B	B	校内のあいさつ運動と近隣3校によるあいさつ標語コンクールにより指導の充実を図った。	B	あいさつ標語は立派な作品が多かった。あいさつを促進する取組を継続してほしい。	B	代表委員会による自主的な挨拶運動も見られ、学校全体にあいさつの大切さが広がった。	B	あいさつ標語を通して学校関わりが広がった。	今後も児童自身があいさつの大切さを感じ進んで行動に移せるようにする。
	○ブルーラビットバンドの活動	・4年生以上の希望者によるバンド活動を通じた音楽活動の充実	・保護者、児童アンケート、教職員評価90%	B	A	B	バンド活動参加児童が増え、4年以上の児童が協力して活動している。区民まつり、三校一園音楽会にて演奏した。	B	様々な行事で活躍していることが素晴らしい。伝統あるバンドなのでこれからも期待している。	A	各活動を通し、校内でも参加したいという児童が増えている。	A	伝統を大切にして、今後もバンド活動の充実を目指してほしい。	児童の活躍の場を設け、児童が誇りに思えるようにする。
	○竹馬活動	・竹馬を通じた異学年交流活動を実施	・児童、教職員アンケート90%	B	B	B	3学期の実施に向け、異学年交流が活発になるよう実施案を作成中。	B	学校特有の行事を大切にしながら、上級生と下級生とのかわりを大切にしてほしい。	B	仲良し班活動を生かした竹馬集會ができた。竹馬の伝統だけでなく、児童交流も目的とした活動が実施できた。	B	伝統となってきている活動を継続してほしい。また、下級生に教えることも大切な火活動だと感じる。	実施期間を見直し、より効果のある活動へと見直す。